▼レケンビ点滴静注　［注］

【重要度】　【一般製剤名】レカネマブ（遺伝子組換え）　Lecanemab（Genetical Recombination）　【分類】
【単位】▼200mg/V［2mL］，▼500mg/V［5mL］
【常用量】1回10mg/kg，2週間に1回
【用法】1時間かけて点滴静注
●生食250mLで希釈
●投与中は6ヵ月毎を目安に認知機能検査，自他覚症状などの臨床症状の評価を行い，有効性が期待できないと考えられる場合は本剤の投与を中止
【透析患者への投与方法】
【保存期CKD患者への投与方法】
【特徴】可溶性（プロトフィブリル）および不溶性アミロイドβ（Aβ）凝集体に対するヒト化IgG1モノクローナル抗体．Aβ病理が確認されたADによる軽度認知障害または軽度認知症に適用．毒性のより高い可溶性アミロイドβ（プロトフィブリル）に選択性があるとされる．
【主な副作用・毒性】Infusion reaction（発現した場合は次回以降プレメディ考慮），アミロイド関連画像異常（ARIA），頭痛，めまい，低血圧，転倒，皮疹など
ARIA：血液脳関門などにみられる神経画像異常（浮腫：Eや出血：H）で，多くは無症状だが，重篤になる場合もある．症状としては頭痛，錯乱，めまい，視力の変化，吐き気など

【安全性に関する情報】ARIA の発現は本剤投与開始から 14 週間以内に多い（1）抗アミロイドβ薬と脳萎縮の関連指摘（Alves F, et al: Neurology 2023 PMID: 36973044）

【F】
【tmax】
【代謝】
【排泄】
【t1/2】
【蛋白結合率】
【Vd】
【MW】
【透析性】
【O/W係数】
【肝障害患者への投与方法】
【小児CKD患者における報告】
【妊婦・授乳婦への投薬】
【主な臨床報告】PETで評価したアミロイドβ低下は用量依存的に認められた（Swanson CJ, et al: Alzheimers Res Ther 2021 PMID: 33865446）

初期アルツハイマー病患者を対象とした第3相試験（Clarity AD）によりCDR-SB scoreの低下抑制とPETによるアミロイドの低下を認めた（van Dyck CH, et al: N Engl J Med 2023 PMID: 36449413）
10mg/月よりも10mg/隔週投与とアミロイド減少効果が関連する（Hayato S, et al: CPT Pharmacometrics Syst Pharmacol 2022 PMID: 36165093）
米国の保険制度の範囲では，レカネマブの効果を考慮した場合，標準ケアのみよりも生存期間延長とともに社会的コストが低下する（というシミュレーション）（Tahami Monfared AA, et al: Neurol Ther 2023 PMID: 36929345）
中等度以上へのAD進行を約3年遅らせ，（ケアギバーを含めた）QOLの向上とともに社会的コストが抑制できる（というシミュレーション）（Tahami Monfared AA, et al: Neurol Ther 2023 PMID: 37009976）
【更新日】20231005

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。
※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。